

病院計画 総覧

再編・統合が加速する
病院整備の最前線

2025
年版



発行 産業タイムズ社

特別インタビュー

JMA 海老名総合病院 病院長 服部智任 氏

新棟で DX 推進、ダ・ヴィンチなどが起動

（社医）ジャパンメディカルアライアンス（JMA）海老名総合病院（神奈川県海老名市河原口1320、Tel.046-233-1311）は、新棟（西館）を建設し、2023年5月末から稼働、神奈川県の県央地域で高まる救急医療の需要に応じている。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」や、病院内情報を可視化する病床稼働管理システムを採用し、DX推進を図っている。現在の医療環境の状況と、今後の取り組み、患者の高齢化や神奈川県・県央医療圏の医療情勢について病院長の服部智任氏に聞いた。

さがみメディカルパートナーズ加盟病院とデジタル情報共有へ

—— 23年に稼働した新棟について。

服部 新棟は5階建てで、1階に救命救急センター、救命病棟、高度検査センター（内視鏡センター、画像診断エリア）などを配置、2階は手術室やICU、3～5階は病棟を設置した。神奈川県の県央地域で高まる救急医療ニーズに対応するため、20年に工事を開始し、23年5月に竣工した。病院全体では、この新棟としての西館に加え、既設の東館および本館の3棟で構成される体制になった。病床数は479床で従来と変わらず、そのうち個室病床は108床で、個室比率は25.8%だ。救命病床は30床で、従来比10床を増やした。手術室は13室（日帰り手術室2室含む）で、従来比3室増だ。診療科目は24科。

—— 新棟では、高度急性期医療に必要な機能を1階と2階に集約している。

服部 以前はフロアが分かれていた救急外来、救命病棟、高度検査センターを1階に集約した。2階の手術室、アンギオ室へは寝台用エレベーターを使って、最短距離で移動できる構造にしている。これによって、救急搬送から緊急手術まで、より効率的で迅速な処置が可



服部智任 病院長

能になった。手術室は、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」に対応している。すでにご存知だと思うが、医師が3D映像を確認しながら操作する手術支援ロボットで、術中の出血量が少なく、術後の回復も早いなど、患者さんにとってより低侵襲な手術を可能にする。コンソールから、3D画像を見ながらペイシェントカートの4本のアームを操作する。このダ・ヴィンチは、今のところ主に外科と泌尿器科の手術で用いられている。

—— 病棟は、「スーパートライアングル」様式を採用している。

服部 ワンフロアに3つあるスタッフステーションは、トライアングルの角に設置され、病床の60%がスタッフステーションに正対している。患者さんからもスタッフステーションが見やすく、安心感を与えている。スタッフステーションからは各病室が見やすく、入院患者さんが安心できる構造になっている。病棟の大部屋（4床室）はベッドサイドの柱型を排除し、すっきりとしたスペースを確保する。個室はベッド周囲を

広く設計している。

—— 院内情報を可視化できる病床稼働管理システムを新たに導入し、DX推進を図っている。

服部 病床稼働管理システムは、空床・転床情報を即時に把握するもので、病院内の多様なデータを分析・可視化できることで、病床の効率的な運用を実現している。これによって、DPC（診療群分類包括評価＝Diagnosis Procedure Combination）よりも退院が遅れている患者さんの状態や原因探求、空床状況を把握することを効率化している。

また、このシステムの運用によって医師、看護師、

ソーシャルワーカーなどが組織横断的に情報交換・共有し、課題解決に取り組む機会が増えている。これによって、医療従事者たちが自分の仕事以外の医療の情報を共有でき、また他部門からも刺激を受けることで、スキルアップにもつながっている。このシステムはGE社製で、稼働後も継続して最新の情報を取り入れ、作り込みの作業を続けている。使いやすいシステムに進化させるために、最新情報を入れ込む作業はこの先もずっと続けていくことになるだろう。今後はすべての医療従事者がこのシステムから情報を読み取って使いこなすことができるようにするスキルアップのための訓練を病院全体に広げていくことが重要と考えて

いる。その後は患者さんの入退院、手術の承諾書についてペーパーレス化を進めていきたい。

—— さがみメディカルパートナーズに加盟する他の4病院とも空床・転床の情報共有を図る。

服部 病床稼働管理システムでは、地域医療連携推進法人さがみメディカルパートナーズに加盟する他の病院（座間総合病院、桜ヶ丘中央病院、湘陽かしわ台病院）とも情報を共有して神奈川県の中核医療圏の救急医療に役立てられるように、作り込みの作業を進めている。異なる医療法人との間での情報共有は画期的なことであると自負している。

—— さがみメディカルパートナーズとは。

服部 神奈川県から、2019年4月に地域医療連携推進法人として認定を受け、私が代表理事を務めている。参加法人は、ジャパンメディカルア



救急医療に対応する新棟の全景



救命救急センター外部入口付近

ライアンス（海老名総合病院、座間総合病院など）のほか、（福）ケアネット（特別養護老人ホーム4施設）、（医）社団神愛会（オアシス湘南病院、ほほえみケアネット）、（医）社団哺育会（桜ヶ丘中央病院）、（医）社団医誠会（湘陽かしわ台病院）、（医）博清会（海老名田島クリニックなど）の6法人だ。医療連携推進区域は県中央医療圏の厚木市、海老名市、座間市、綾瀬市、大和市、愛川町、清川村を対象としている。救急医療提供のための協力のみならず、がん診療の部分でも連携を強化したいと考えている。県央地域での「がん」の医療構想区域内の治療完結率は低く、医療圏外への患者流出が顕著なことから、参加法人（病院）の強みや特色を活かしなが

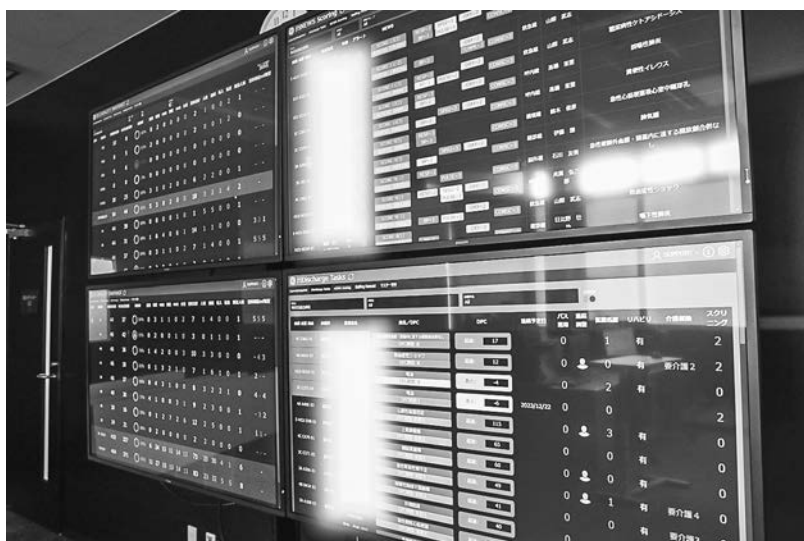
ら連携し、がん疾患の診療体制を強化、県央医療圏内の入院医療の完結率向上を狙いとしている。

患者の高齢化で見守り必要に、患者との交流が重要、教育機能向上で魅力ある職場づくりへ

— 新棟の評判はどうか。

服部 新たな建物や設備の稼働状況は順調である。ただ、院内にご意見箱を従来よりも多く設置したところ、多くの方から意見を頂戴した。車椅子を利用している方からは、手を洗った後に手をふくためのペーパータオルが健常者用に通常の（高い）位置に設置されている

ことから、手が届かないなどといった、私たちの気が回らなかった（細かな）点で指摘をいただいた。様々な患者さんがいらっしゃることに気づけず、反省している。一方、医療従事者からの新棟に対する設備面での困難の指摘はなく、新規導入した病床稼働管理システムも相まって救急患者の受け入れ体制が格段に向上した。救命病棟の病床は、従来の20床から30床に増やしている。



院内情報を可視化するコマンドセンター



新棟のスタッフステーション

— 社会はアフターコロナへ移行しつつあるが、医療界の状況はどうか。

服部 新型コロナウイルスによる救急搬送は減っており、コロナ禍前と同様の医療の状態に戻りつつある。救命救急は、様々な疾患に対応できるようになりつつある。一方で高齢患者さんが増えていることから「見守り」機能の重要性が増している。「見守り」は医療と言うよりは介護の領域で、これを医療従事者が病院内で

行うのは時間的かつ物理的に困難になってきている。そのため、急性期専門の当病院でも看護部と並列して介護部という組織と人員を確保する必要性を感じており、早期に取り組みたい課題の1つである。見守りの仕事は、介護士が行うほかに、AI、デジタル、センサー技術を使って解決できる部分もあると考える。

—— 高齢の患者を精神的に元気づけることも大事だ。

服部 回復を促進し高齢者を精神的に元気づけるには、若い人との会話や交流が重要で、交流によって気持ちが高揚する効果がある。病院内などにその交流場所があれば、若い人も高齢者とともに考え方や死生観などを語って得ることがあるのではないかと考える。若い人に多少のアルバイト代を支払ってでも、高齢者と接してもらい元気づける機会を創ることも一案だ。その事例はすでに全国的にはあるので研究対象としていきたい。介護施設の隣接に若い人のシェアハウスを設けるといふ事例についても学んだことがある。

—— 神奈川県内の県央医療圏の情勢についてどう見るか。

服部 神奈川県央医療圏では海老名駅周辺の開発に伴う人口増により、救急医療の必要性が拡大すると推測されている。この救急医療の要求拡大に対応できる機能・規模を確保するため、新棟を建設した。24時間365日断らない救急医療の実現を目指して、医療機能

の充実に努めている。今後も県央地域で高度急性期医療の中核を担えるように尽力していく。他方、救急病院といえども、医療提供だけが使命ではなくなっている。病気にならないための予防、未病への取り組みを一般の人へ促すことが肝要になっている。そのため、海老名市とは、小田急電鉄のビナウォークを含めて地域で連携し、統合的なヘルスケアへの支援に努めている。また、県央医療圏は人口に比して、医療従事者の人数が足りない。医師、看護師、事務員すべてが足りないので何らかの対策を考えなければならない。

—— 医療従事者の不足について解決策はあるか。

服部 病院あるいは医療分野を、若い人たちが職員として働きたくなる環境にするために、魅力のある職場として整えることが肝要である。賃金面だけではなく、例えば、教育機能を向上させて仕事の能力を磨き上げられるプログラムを組むなど、職員のスキルアップにつながる環境を構築することが重要と考えている。そうすれば、若い従事者が仕事への将来性を感じて集まってくれるのではないかと期待する。

—— 服部病院長の経歴について紹介を。

服部 1985年に滋賀医科大学を卒業し医師免許を取得、日本医科大学の泌尿器科学教室に入局した。1992年からは米国ボストンで2年間の留学を経験している。2000年から海老名総合病院に勤務し、2015年から病院長職に就いている。

—— 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス（JMA）について。

服部 JMAグループの始まりは、1973年に「救急こそが医療の原点」という信念のもとに「仁愛会」として設立され、一般病床50床の東埼玉病院が開設されたこと。03年には法人名をジャパンメディカルアライアンス（JMA）に改めた。現在は神奈川県のほか、埼玉県、静岡県に合計37（23年11月時点）の施設・事業所を持ち、



新棟の外観

病院4、クリニック6、介護老人保健施設3、特別養護老人ホーム5、サービス付き高齢者向け住宅1、介護事業所17、保育所1を展開している。社会的な環境変化や要望に合わせて、保健から介護までのサービスを一つの流れとして、役割に応じた施設機能を整備しており、全施設が「仁愛」の精神を基本理念とする同じ理想と志をもって、地域の健康と安心を支える事業を展開

している。2023年9月には50周年を迎えた。仁愛の心で社会貢献を果たし、100年続く法人を目指している。

(聞き手・笹倉聖一記者)

[医療産業情報2024年3月1日第2513号／3月8日第2514号掲載]

福井県

奥越と嶺南医療圏で既存病床数が不足

福井県（福井市大手 3-17-1、Tel.0776-20-0345＝健康医療局地域医療課）は、2024 年度～29 年度を期間とする第 8 次医療計画を始動している。同計画における二次医療圏については、従来と同様、福井・坂井、奥越、丹南および嶺南の 4 つの圏域とする。奥越医療圏および丹南医療圏については、二次医療圏を維持するため、県だけではなく、関係市町においても患者流出の防止に向けさらなる取り組みを実施する。

計画期間中における基準病床数は表のとおり。県全体の既存病床数は 8260 床（23 年 10 月末時点）で、基準病床数（8076 床）に対して 184 床超過している。医療圏別では、奥越と嶺南医療圏の既存病床数が基準病床数に対して不足している。福井・坂井医療圏の既存病床数は 4960 床で、基準病床数（4873 床）比 87 床の超過。奥越医療圏の既存病床数は 391 床で、基準病床数（415 床）に対して 24 床不足している。丹南医療圏の既存病床数は 1670 床で、基準病床数（1492 床）比 178 床の超過。嶺南医療圏の既存病床数は 1239 床で、基準病床数（1296 床）比 57 床不足している。

県全域の精神病床の既存病床数は 2144 床で、基準病床数（1707 床）に対して 437 床超過している。結核病床の既存病床数は 20 床で、基準病床数に一致している。感染症病床の既存病床数は 28 床で、基準病床

福井県の 2 次医療圏

圏域名	市町村名
福井・坂井	福井市、あわら市、坂井市、永平寺町
奥越	大野市、勝山市
丹南	鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町
嶺南	敦賀市、小浜市、美浜町、高浜町、おおい町、若狭町

福井県の基準病床数および既存病床数

病床の種別	圏域名	基準病床数	既存病床数	差引数
療養病床および一般病床	福井・坂井	4,873	4,960	-87
	奥越	415	391	24
	丹南	1,492	1,670	-178
	嶺南	1,296	1,239	57
	県全域	8,076	8,260	-184
精神病床	県全域	1,707	2,144	-437
結核病床	県全域	20	20	0
感染症病床	県全域	17	28	-11

数（17 床）に対して 11 床超過している。

滋賀県

大津、湖南、甲賀、湖西で病床不足

滋賀県（大津市京町 4-1-1、Tel.077-528-3610＝医療政策課）は、医療資源の適正な配置を図り、健康増進から疾病の予防・診断・治療、リハビリテーションに至る総合的な保健医療供給体制の確立を目指し、2024 年 3 月に「滋賀県地域保健医療計画」を改定した。同計画は総論、健康づくりの推進、総合的な医療福祉提供体制の整備、計画の推進の 4 つの部で構成され、5 疾病や 7 事業にかかる施策を提示。そのほか、二次保健医療圏の区分や基準病床数などを明示しており、がんや在宅医療などの数値目標も記載している。

二次保健医療圏に関しては、大津、湖南、甲賀、東近江、湖東、湖北、湖西の計 7 圏域のままで、圏域人口は大津が 34 万 5202 人、湖南は 34 万 6649 人、甲賀は 14 万 2909 人、東近江は 22 万 6814 人、湖東は 15 万 5375 人、湖北は 15 万 920 人、湖西は 4 万 6379 人を数える。

滋賀県の 2 次医療圏

圏域名	市町村名
大津	大津市
湖南	草津市、守山市、栗東市、野洲市
甲賀	甲賀市、湖南市
東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
湖東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
湖北	長浜市、米原市
湖西	高島市

滋賀県の基準病床数および既存病床数

病床の種別	圏域名	基準病床数	既存病床数	差引数
療養病床および一般病床	大津	3,669	2,992	677
	湖南	3,067	2,555	512
	甲賀	1,335	1,056	279
	東近江	2,077	2,252	-175
	湖東	1,149	1,164	-15
	湖北	1,091	1,156	-65
	湖西	442	406	36
精神病床	県全域	1,812	2,238	-426
結核病床	県全域	34	34	0
感染症病床	県全域	21	63	-42

(仮称) 東松戸福祉医療センター：病院新設

千葉県

【計画地】松戸市高塚新田 123-13

【開設者】(医) 徳洲会 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-3-1 Tel.047-391-5500 (徳洲会)

【病床数】198床(計画) 【完成】27年12月

【計画内容】東松戸病院は1993年に開設。介護老人保健施設の「梨香苑」を併設しており、診療科目11科、病床数181床。施設規模は敷地面積3万9155m²に4階建て延べ1万2856m²。市では、施設の老朽化や耐震問題、建て替え費用問題などから24年3月に廃止した。松戸市はこの跡地活用について、医療施設の要望が大勢を占めていたため、公募を行い、徳洲会を事業者として選定。徳洲会は、用地の南側2万5000m²において回復期、慢性期を主体とした新病院を建設する。診療科目は6科(内、循、小、外、整、リハ)、病床数は198床(急性期30床、回復期リハ148床、緩和ケア20床)を計画。今後のスケジュールは25年1月の建物解体着工、同年12月の病院着工、27年12月の病院竣工を予定している。

千葉県

松戸市立総合医療センター：新棟建設

千葉県

【計画地】松戸市千駄堀 993-1

【開設者】松戸市 〒270-2296 千葉県松戸市千駄堀 993-1 Tel.047-712-2511 (松戸市立総合医療センター)

【病床数】600床(現在) 【完成】未定

【計画内容】東松戸病院は、施設の老朽化や耐震問題、建て替え費用問題などから24年3月末までの廃止を決定。これに伴い東松戸病院の機能のうち緩和ケア機能と人間ドック機能を総合医療センターに移設するため、別棟を建設する。施設規模はS一部RC造り4階建て延べ約3800m²。内部は1階に(仮称)予防医療センター、2階に更衣室、3階に緩和ケア病棟(20床)、4階に機械室、倉庫などを配置予定。市は24年3月に一般競争入札を公告したが、開札予定の同年5月27日前に入札参加業者が辞退した。このため、市は市場動向などを確認し、入札に参加できる環境整備を図るためサウンディング型市場調査を実施。市はこれに基づき再公告の時期など方策を検討している。なお設計は佐藤総合計画が担当した。

松戸整形外科病院：病棟建設

千葉県

【計画地】松戸市旭町 1-112-1

【開設者】(医) 青嶺会 〒271-0043 千葉県松戸市旭町 1-161 Tel.047-344-3171 (松戸整形外科病院)

【病床数】60床(現在) 【完成】26年6月

【計画内容】同病院は診療科目3科(整、放、リハ)、病床数60床。施設は外来棟が築後約20年、病棟が40年を経過し、老朽化が進んでいるため、リニューアルプロジェクトを推進。第一弾工事で外来棟の修繕工事として診察室の内装改修、待合室の内装改修、階段の改修、トイレの改修、授乳コーナーの設置を24年9月に完了した。引き続き、病棟を近隣の松戸市旭町 1-112-1に移転改築し、外来機能と入院機能を分ける計画。病院経営の効率化を目的として病床数を現在の60床から28床減の32床とする計画。また、転院調整や退院支援などをさらにきめ細かく行うため地域医療推進室を設け、窓口の明確化や診療体制の充実を図る方針。現在、内部で詳細を詰めており、25年4月の着工、26年6月の完成を予定している。

キッコーマン総合病院：増築

千葉県

【計画地】野田市宮崎 100

【開設者】キッコーマン(株) 〒278-0005 千葉県野田市宮崎 100 Tel.04-7123-5911 (キッコーマン総合病院)

【病床数】129床(現在) 【完成】28年

【計画内容】同病院は、1914年設立し、食品メーカーを経営母体とする企業立病院としては全国唯一の病院。設立以来、急性期診療を中心に地域医療を推進している。診療科目は15科、病床数は129床(急性期83床、地域包括46床)。今回、2病棟80床を増床するため増築を行う計画であり、千葉県から24年4月に病床配分許可を得ている。増築する2病棟は回復機能を有する病棟とし、1病棟を地域包括ケア病棟、1病棟をリハビリテーション病棟として整備する計画であり、東葛北部医療圏で不足している回復期機能の役割を果たす意向。増築計画に伴い、既存の地域包括ケア病棟を急性期病棟へ転換し、新興・再興感染症も病棟全体で受け入れ可能な病棟として整備する方針。28年4月の供用開始を目標としている。



書 名病院計画総覧 2025 年版
体裁・頁数B5 判 416 頁
定 価27,500 円（税込）
発 行2025 年 2 月 10 日